





隱自天舎

聖山



中

手安氏

續書

秋之部

月色とれぬとや赤よの秋男七夕  
天川あゝも蚊魚も鳴りきり  
早合や藪エ女セも影の系キさん  
權カき早ハにハわハるハるハれハれ  
魚イ針ハやハ舟ハ川ハとハもハんハてハのハ川  
大肉ハれハかハらハりハあハさんハ早ハまハりハ  
早ハ合ハやハおハにハあハらハつハ鴨ハかハさん

風虎

白枕

風雪

権花

綾戸女

千子

毒閑





後思

夕夕。のぼるおの後の西雲に外 由之  
まゝ今も夕夕ののぼるおの後の西雲に外 具角

贈桂花堂

露子曲ル念ひ乃一ツくれ 露沾  
露子曲ル乃日親のくけし 蚊足  
露子ハ二人かろきくあふふ 杉風

驚夜雷

下は晴々々露 雷に激し 具角  
イサキヨ

寄李下

いかりももいふにさう 芭蕉  
いかりもや 岩泉  
いかりもや わりく 湖風  
いかりもや 目をさす 魚兒

遊女

あはれもいふにさう 芭蕉  
あはれもいふにさう 芭蕉

露烟は母乃外の夕夕け外 去來  
父母乃親 灯篝物もあやん外 由之



たうお人の心をも草かゝりに折れり 金峯  
ふる魂乃ちかよふ粟らふ小風りや 文枕

夜をききみく

ひんづるに夜

こゝろをさかんく

女餓鬼すく金令よめ也や注のる 文鱗  
金とらハ秋なまき門乃灯籠か 嵐雪

貧

魂やらん糸くぬ糸く聊一ま 蚊足

對愁

ここのあをくしんや隣乃玉糸 其角  
るまきつり門のを食れ親きん 同  
さち火乃山いさのあれさ 観水  
朝つらん浦つら子れきま玉 苔翠

志気乃のらた周

されまのい中く踊尺歌地や 自悦  
躍子よあすの畠乃州あうん 去來  
盲月を航ちくく玉火うれ 春雷  
吹よせく江乃一隅や水と雲 苔翠



くせ約てちるまああいあ外 春雷

禪師よまのこ

おとつとまのりか 書紀 文鱗

遊女の酒をたげ

ひよと充湯乳のこ乃蕪くん 同

女印もあまの後の花のり 景道

下園をまのゆかた乃一平くね 冬柏

帝陸へはるりく

奉舟のあまに越くち穂芦が 全濟

つたの秋草にこいあく形さるが 曾子

萩ふや一あふやせ山乃大 芭蕉

旅宿

も程垣をたんたうくに再入あり 観水

入湯の比

夕萩乃つめにんくは湯起非 紋水

もかろ山中

秋をけすくちあふあをて鼓く雨 舉白

鶴啼くくちにたあある山外 同



山先の秋の〜〜〜紋水

兄去来の〜〜〜

伊勢へ詣けるるすけら

初秋の〜〜〜

伊勢のよれたる〜〜〜女千子

草木のよれもら〜〜〜同

うげふふ乃あるよ〜〜〜沾荷

聴閑

菘生れを〜〜〜芭蕉

字〜〜〜

何と書も〜〜〜嵐雪

し〜〜〜沾蓬

聖護院の〜〜〜

〜〜〜

峯への宮を〜〜〜宗因

かげおれ貝よ〜〜〜具角

早稲酒也ほ〜〜〜虚谷

さ〜〜〜野水

さるれ〜〜〜具角



望とわくく富を月くは我がしは  
紋水  
秋の野やんくろ少多の切山鳥  
塵谷  
草やわくくくくくへて草中か  
風虎

草庵乃月見

名月や池をめぐくおもひ  
芭蕉  
雲影く人な休あつ月んか  
同

庵跡に訪ひて以宿根本寺

ちんくくくくくくくくくくく  
同  
名月と戸ぬくくくくくくく  
折風

月んくくくくくくくくくくく  
季下  
亦今くくくくくくくくくくく  
観水

月下獨酌

月んくくくくくくくくくくく  
蚊足  
月露を草切ほくくくくく  
巴風  
きくくくくくくくくくくく  
去來  
家んくくくくくくくくくくく  
野馬  
月んくくくくくくくくくくく  
孤屋  
樽の人月んくくくくくくく  
破笠



宗鑑り海と高のよき

貞室うきたられたる

系日詞にて三人の曲

古袴月よ舞わす我をくら月か 文鱗

誤係りし小座りかて

お物一の体息

仕ゆされと

月のこよひ我里人のき来せん 去来

月さかり富士をちりし月 冬市

月満く揃干うくく月か 由之

盲より啞乃かき月か 去来

名月や所堂<sup>三</sup>の鼓かりてゆふ 其角

良夜雨意

いとよひもらや 十四日 同

尋常れこり月んよとれ 彫棠

月撰<sup>ハ</sup>久やうの影を

同ちをいふたあらん凡破<sup>ハ</sup> 鹿谷

系顔乃思くかなもて月んえ 魚兒

商人をんるものよやあれ月 文鱗

名月や露のいある土の法 且只



名月をよき掃くやと鳥れ乱きり  
 おひきをくくしの月乃星より外  
 中よおく月一箇や宵のき  
 名月ハ汐よぢりく小舟外  
 鉤そらうひよぢりく月ハ外  
 名月や日か名月いらあらん  
 海東にわつれきり  
 秋のあそびかき多さうの麻草が  
 一ちりり初もあぬれきり外

濁子  
 蚊足  
 似写  
 吼雲  
 一林  
 如泥  
 初叶  
 李下

秋きおよ夜がくよ旅のや外  
 長き物と旅くしに初はり  
 麻かしてきくあり破外  
 旅人よ村よきり外  
 山里や碓よかきり外  
 子れ泣ききりきり外  
 母よきり大蛇きり外

去來  
 破笠  
 金峯  
 積風  
 山川  
 蚊足

旅かぬくまらむはけはなかな  
 手りきねぬしひとく人由  
 ちりきり外きり外  
 秋きおよ夜がくよ旅のや外  
 長き物と旅くしに初はり  
 麻かしてきくあり破外  
 旅人よ村よきり外  
 山里や碓よかきり外  
 子れ泣ききりきり外  
 母よきり大蛇きり外



の奥に  
おあ

砧をくぐりぬき宇をたや坊妻 芭蕉

獨床

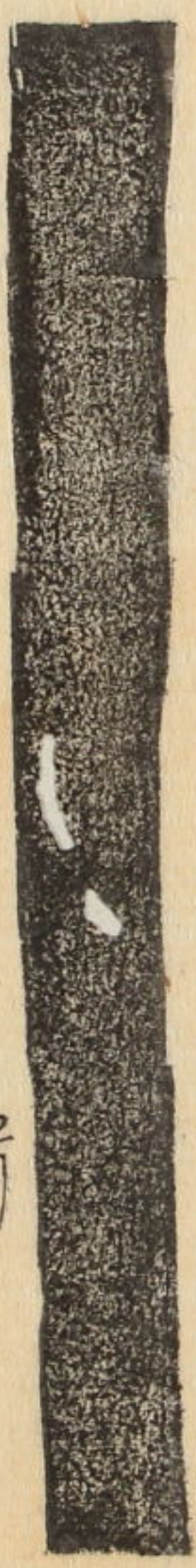
あまの舟をくぐりぬき宇をたや坊妻 芭蕉

秋興 廿四句

面白く物うきありのい砧うね 露荷

竹遠く 緋乃雨 夕角

榎を敷く窓の窓は月影 白



ちりくも雲ありく心襟巻 日

しらぬ包 鷹居ては 角

山寺の巖をあらはし乾りし 花

雲かきぬく霧の能目 角

新麦鳴子をぬきし仇作り 角

車あがりかたの露の 角

夕陽の道志の馬はよ離れて 角

兵やよみ 三石の葉 角



先獨<sup>ニ</sup>むゆ<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>り<sup>キ</sup> 荷  
酒<sup>ヲ</sup>買<sup>ハ</sup>り<sup>キ</sup> 草庵の<sup>ニ</sup> 角  
水<sup>ヲ</sup>ゆ<sup>リ</sup> 橋乃<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>より<sup>リ</sup> 烟<sup>ヲ</sup>ち<sup>キ</sup> 日  
<sup>ワヨキ</sup> 游<sup>ビ</sup> 習<sup>ヒ</sup> 子<sup>ノ</sup> 荷  
夕<sup>ノ</sup>月<sup>ヲ</sup>あ<sup>ハ</sup> 急<sup>ニ</sup> 所<sup>ニ</sup> 怨<sup>ミ</sup> ところ<sup>ニ</sup> 荷  
あ<sup>ハ</sup> ぬ<sup>ル</sup> 戸<sup>ヲ</sup> 立<sup>ル</sup> 電<sup>ヲ</sup> 志<sup>ス</sup> 荷  
在<sup>ル</sup> 空<sup>ニ</sup> に<sup>テ</sup> 掃<sup>ク</sup> 在<sup>ル</sup> 心<sup>ヲ</sup> 荷  
召<sup>ス</sup> 於<sup>テ</sup> 年<sup>ヲ</sup> 心<sup>ヲ</sup> 精<sup>シ</sup> 荷  
御<sup>コ</sup> 盞<sup>ヲ</sup> 初<sup>メ</sup> 子<sup>ノ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 初<sup>メ</sup> 荷  
角

甲<sup>子</sup>乃<sup>ハ</sup> 達<sup>ス</sup> 歌<sup>ハ</sup> 長<sup>ク</sup> の<sup>ハ</sup> 大<sup>ニ</sup> 新<sup>ニ</sup> 荷  
上<sup>ニ</sup> 次<sup>ニ</sup> ある<sup>ニ</sup> 余<sup>ハ</sup> 初<sup>メ</sup> 人<sup>ノ</sup> 曉<sup>ニ</sup> 月<sup>ヲ</sup> 角  
牛<sup>ノ</sup> あり<sup>ニ</sup> 地<sup>ニ</sup> 手<sup>ヲ</sup> 暖<sup>ク</sup> 初<sup>メ</sup> 荷  
重<sup>九</sup>

三十九

あ<sup>ハ</sup> 名<sup>ヲ</sup> れ<sup>ニ</sup> 行<sup>ク</sup> 筆<sup>ヲ</sup> 蚊<sup>ノ</sup> 足

四十

年<sup>ヲ</sup> 流<sup>ス</sup> 柔<sup>ニ</sup> 初<sup>メ</sup> 同  
弟<sup>ノ</sup> 此<sup>ノ</sup> 情<sup>ヲ</sup> 春<sup>ノ</sup> 秋<sup>ノ</sup> も<sup>ハ</sup> 露<sup>ヲ</sup> 沾



御蘭々々に胃がらぐらん菊あはせ 巴風  
年々の香るや一花の葉 衛門  
筆鳥のゆふたに〜 蘭の菊 其角  
菊桃々々水くむるれ 岩翁  
いづくふ七ナ、ウ百ナ、ウ此所を菊に遊ん 具角

艸菴雨

起ある所菊ほのや水のあと 芭蕉  
瘦ぢう〜ワア〜ナ、ウ菊れつるが 同  
雨き〜地も遠ナ、ウ美をよるん 具角

雨敷日市ハかくあは菊のふ 文麟

詠り

花葉れいがあるも 視、に 観水  
花葉よナ、ウ道ゆきかゆる風うれ 透雲  
い〜るに甲斐ある信や 椎の音 岩泉  
あ〜れか〜もあや 椎乃丸折 三翁  
岸ふら夕月あ〜る方花葉界 観水  
童さ〜拾〜 徑乃い〜りか 同  
柞落〜松茸〜みえぬ白く如 魚兒



松茸やわたり奥に庵をたが 孤屋  
松茸や一日くらす此の海 三翁

京出旅日

片腕をさやこに掛すみまふ 寺角  
うららかにくはる道の掃き松介 同  
谷ひらけ里餉さるるみまふ 冬市

旅日

紫書や櫃のくろく松の葛 巴風  
家神れ多きや此世の村時多 薄雲  
遊女

岸の松籟あきしーの夕外 冬市

秋山二首

甲斐なりのもろきす秋の夕外 露沾  
秋山や弱もゆるる 鞆乃と 其角

閉門覓句

秋をしく目土まらぬ旅籠うし 三園  
秋のよきさう菊鶏にや地の中 舟竹

秋盡

河の入に縄乃すれよ伏の昏 不炊



ふりあきらふし〜れとや乃れ  
秋の〜れ  
一鐵

六客 歌仙

述懐

破笠

たへ食ふたのむかひあはせぬけり

その秋を責め出せ蟻 其角

のこころの秋は憎む音をし 全

月よりゆるせうき茶の飯 笠

うきもきもゆるぬる暮の雪 同

心もあはせぬ秋の〜が子 角

終

人あはれを遠より急入上りたらし 角

別をいふらんを床に金めく 笠

君こそ名残をさぐらるらん〜 同

あ〜ともあつ〜く〜 角

鍋よりて筑戸の市あ〜〜と 月

色酒の世よ〜のを+辨+めく 笠

川あゆみ+懐+めい+流+ま〜 同

ゆ〜摺〜ふ〜ち羽の箱磨スリ 角

秋ゆ〜笠〜宿〜天〜下 月



松を産所よむそ月  
 角 笠  
 宋買ふゆそ却しよむのそ  
 月 角  
 雪消をわる甲斐のるそ  
 角  
 無事 夢乃らむわや堂を  
 同  
 死出入鳥の燭を喰  
 笠  
 一巻の捨子に晴結り  
 月  
 家ももりいさめ製法  
 角  
 業を躍しぬんとかおと  
 同  
 病のうきしゆりけけの乾  
 笠

釈教 月ゆく傍と隣よゆゆ  
 笠  
 佛本よりし曉をすつ  
 角  
 定の形より義儀の存起お納め  
 月  
 鐘流よあしハ折るつを山  
 笠  
 藤ろしものより富のせを悟り  
 同  
 染のそし深く維濟つらん  
 角  
 柳林 じ舞よ度會ゆつこぬの風  
 月  
 各業よりし離園を  
 笠  
 さ月詩加茂の条あること  
 同



瘵<sup>シヤリ</sup>落<sup>リ</sup>とと<sup>ト</sup>柳<sup>ヤナギ</sup>以<sup>テ</sup>て<sup>テ</sup>角  
かつとを<sup>ニ</sup>軍<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>祿<sup>ヲ</sup>は<sup>シ</sup>免<sup>ル</sup>れ<sup>ル</sup>同  
春<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>海<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ト</sup>大<sup>ノ</sup>宮<sup>ノ</sup>司<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>相<sup>ト</sup>並<sup>ス</sup>

文化三

雷<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ヲ</sup>那<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>九<sup>ノ</sup>集

不<sup>レ</sup>極<sup>ル</sup>乃<sup>レ</sup>部

十月十一日餞別會

旅<sup>ノ</sup>人<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>我<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>も<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>人<sup>ト</sup>妙<sup>ノ</sup>齋<sup>ト</sup>芭<sup>ノ</sup>蕉

亦<sup>レ</sup>人<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>を<sup>テ</sup>宿<sup>ル</sup>く<sup>テ</sup>由<sup>レ</sup>之

鶴<sup>カマ</sup>飲<sup>クキ</sup>乃<sup>レ</sup>心<sup>ヲ</sup>を<sup>テ</sup>世<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>角

粮<sup>ヲ</sup>を<sup>テ</sup>分<sup>ク</sup>て<sup>テ</sup>山<sup>ノ</sup>陰<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>鷹<sup>ト</sup>松<sup>ノ</sup>風

い<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>生<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>高<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>海<sup>ノ</sup>録<sup>ト</sup>文<sup>ノ</sup>麟

新<sup>ノ</sup>舞<sup>ノ</sup>基<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>よ<sup>ク</sup>す<sup>ハ</sup>ハ<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>仙<sup>ノ</sup>化



中の秋盡ユ一つさかへるあはれ エカキ 魚見

新しきあはれくる カラ 渡舟 観水

邪鬼やあはれなる シ 波のしほ 全峰

嶺と御引出るるあはれ シ 去 嵐雪

酒のよきとあはれなる シ 並居る 執筆

知月のまを シ 握つていふ 翁

鯨つる袖つくばり シ 川 由之

蕪一面 シ 舟のこる橋杭 良角

道ち シ 色は シ 破色かり シ 嵐風

月 シ や啼ん シ 泊瀬の シ 菟 コモリト 文録

鳥 シ 籠 シ く シ 白 シ り シ 都 シ り シ へ シ 仙化

か シ も シ も シ め シ る シ を シ 怨 シ め シ 愧 シ 偏 シ 全峰

途 シ 中 シ よ シ り シ くる シ 車 シ の シ 巻 シ を シ 巻 シ へ シ 翁

沖 シ く シ 舟 シ の シ 巻 シ を シ 誰 シ 由之

花 シ 中 シ は シ 君 シ の シ 舟 シ を シ 巻 シ を シ 巻 シ へ シ 嵐雪

別 シ る シ 雁 シ を シ 巻 シ へ シ 琴 シ を シ 巻 シ へ シ 舉白

名 シ の シ 巻 シ を シ 巻 シ へ シ 巻 シ の シ 巻 シ へ シ 観水

萱 シ の シ 巻 シ を シ 巻 シ へ シ 巻 シ の シ 巻 シ へ シ 仙化



老の乃乃繩ありのほろりたる 由之

若流より 跡の園也 翁

の霧を干渉る松をかきくは 峯白

命をながく 無く 遠 蟹 月角

老ゆくもよ けふん海のこゝ 流雪

志くを御寺をたむむる 銀水

藤や石ありて地を日み 全峰

小畑より 山子 松風

坤の戸をふるを酒債サカテのむら 翁

了まよ星を眺より 峯白

薫の志ありて面白く夕涼み 仙化

懺シノいりて 氏乃天王 具角

所收シウ乃笛吹あり 壺色 全峯

儀ギくもく 勝カチよん枝 松風

えくエしと文字の子昂アカシ味アジく 夕風

塚乃錦 蜀をとりて 巖雪

陰ナカの寄出ナカの友よ交りて 銀水

花より出イく 翁



谷深より日くく六むの本同の

翠白

あゝとくればくさるる山

由之

色蕉番全回新

呵きみとせの野まきこそし

露沾

鳥中を送る

もろくしのくせく奥乃頭中外

素堂

尚との中へ渡ぬくしみの菊

不卜

ふかしのゆりしるるか

嵐雪

つ子鳥富ををんくも塔うん坂

杉風

比しきや大井乃嵐佐夜の裏

蚊足

朽やてそ流してふらんを乃表

仙化

遠と孫とそ紙小三つハガ

枳風

糸毎れ紙小やねもさおれの松

李下

つあすもれをの

句あり

文鱗

ぬこさんかく送りりさん何あか

舉白

何あかに溢かりあらん州乃房

由之

公お根山志とれなふ月を影ひかり

露荷



萩枯むらしの紙箔をこいで 沾蓬  
霜をこれお清く圓いお茶めせ 如沈  
冬の白をけちるるくほまれか 溪石  
みづれをさるう首途や花のま 其角

詩歌文章一巻

まづれづくやんわきりる入りか 杉風  
眠りもあつたおにりかす可あか 沾蓬  
まじらわしえまよこぼるくまこれか 去來  
まじらわしえまよこぼるくまこれか 紋足

蜘蛛のた乃 蜘蛛のた乃 命をたをす 冬市  
蝉のうらうらとて 蝉のうらうらとて 為膝  
ゆふくく入る葉集分山風 沢風  
牛池の蹄 牛池の蹄 好柳

深川夜泊

みづくじや夜の本魚をひやまの 木下  
松のたあしつる心りぬ 巴風  
みづ枯るく月よあまの 同  
松苗も松葉も月よあまの 相風



葺屋の役あけけりしをみま  
心志休備とわらふんあゆま  
ト子

甲斐守平一りさゆふ  
り中宿しりさゆふ  
いささおとく

カトけしあや—とよの地蔵が  
破壁

とつをれや家ふるまふ鐘入色  
野馬

をれつりしせき—いささゆきふ  
ルキ

古寺れをれよんとも  
吼雲

芭蕉いつ道根せよ霜のむ盛  
素堂

蜀書

我座の表とさす月乃色  
好柳

和昭柳子

人をえん免れしわのみ  
具角

かのも酒漬をのしん純賣  
好柳

あゆみ那く奪り移るれ  
由之

夜坐 一白

何れゆくみ水隣をさるる  
具角

うつりて火ふ芽さく人の薫モノス  
同



梅枝乃つる火がさしつゝ洞の光  
 明くく世間の寒しつゝく  
 炭くく心育く氷る炭集り  
 灯の影が影すしつゝ火燈の  
 燈を續く命を運ぶ楳の蟻  
 炭竈とくくし短く法師が  
 茶の毛も炭くく糸を足すも  
 情をれておる人冬の蠅  
 其角

寒蠅

法華を穿つわく  
 深き樂無有慧心  
 情をくく心報もあつゝ火燈の  
 炭の毛も炭くく糸を足すも  
 景道

宿僧房

梅枝乃つる火がさしつゝ洞の光  
 明くく世間の寒しつゝく  
 炭くく心育く氷る炭集り  
 灯の影が影すしつゝ火燈の  
 燈を續く命を運ぶ楳の蟻  
 炭竈とくくし短く法師が  
 茶の毛も炭くく糸を足すも  
 情をれておる人冬の蠅  
 其角  
 三園  
 湖水  
 其角  
 湖春



爰後中一浮桶くゝるみるが 冬柏  
水多の朝日蹴くつるうわりが 由之  
あの男袋め痛るう夕ちとる 山夕  
鈴ゆる海鷹又晴入る尾上哉 冬市

十一月九日とらふと降る

初雪や幸<sup>ニ</sup>菴<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup> 芭蕉

等々友人

君火あけけ<sup>くまの</sup>の<sup>足</sup>神<sup>一</sup> 同

山花の夕暮

おはに<sup>い</sup>く<sup>る</sup>ら<sup>る</sup>おは<sup>れ</sup>小<sup>ね</sup> 露沾  
橋<sup>の</sup>市<sup>に</sup>呼<sup>ん</sup>だ<sup>れ</sup> 沾荷  
窓<sup>の</sup>か<sup>た</sup>に<sup>は</sup>夕<sup>ぐれ</sup> 魚兒  
言<sup>は</sup>れ<sup>た</sup>音<sup>の</sup> 孤屋  
友<sup>静</sup>亭<sup>と</sup>お<sup>く</sup> 友

比<sup>良</sup>乃<sup>ち</sup>未<sup>頼</sup>す<sup>り</sup>詠<sup>ま</sup> 自悦  
ふ<sup>れ</sup>く<sup>し</sup>小<sup>ね</sup>も<sup>ゆ</sup>ぐ<sup>て</sup> 文鱗  
り<sup>し</sup>鳥<sup>渡</sup>所<sup>か</sup>く<sup>し</sup> 獨子  
さ<sup>す</sup>お<sup>れ</sup>破<sup>風</sup>より<sup>出</sup>る<sup>煙</sup> 自棄



初もりに目をせむらむ 篋竹外由之

戸路の占公より初書

ふつと書きて盒にもくを 疾計 其角

了れ朝言からにむ

月比とく敷も書れあーたか 露沾

漸るるらつらつ 妙にほる炭 露荷

繪箱張の籬の竹をらるる 其角

狭居

二上よりしりあふらむ道のも 沾徳

ふれくととりしこもをれ後果 守重

幸波に好とく一帯れ縁うれ 観水

とくけしや波の千波の石をら書 紋足

帯の波を流とん書をせり初る 魚兒

慶運、鬮體やさくとも書れ草 紋水

夜あしや夜櫛を拂ふとれ名 漁舟

初もれ川流よとくくつたか 仙化

白川や園よとくある書れとれ 東順

草庵



門乃雪梅ありやと 詠北あり 其角  
 雪大也やはあふ日此より 道あり 全峯  
 彼のくく雪あり 観る人 枳風  
 門の亦傘きくく 尺これ 芥鉞  
 雪深し 斜<sup>ナハラ</sup>白ふる 梅 鉤雪  
 梅より花は 笠もより や雪霏 工齋  
 福金丸 僧より けり 冬 露 露 俗

湯成五倫  
 君臣有義  
 其角

家のまゝのくろをきく 礼は建

父子有親

鮎汁や 増えよ ぬたを けし

夫婦有別

御ねくきめけく あめも ちき也

長幼有序

袴着の娘乃 ちりも ちりも

朋友有信

我は 我は 返す 志は



水鳥のこゝろをこゝろに

治荷

節分

豆をまく我とら此鬼とらん 野馬

市よ入るまをこゝろに原をけ 素堂

うきまをけしきまをけしき 魚兒

碓よ新少い存乃しこすれ 紋水

室乃津よ是代をさす女原をけ 如泥

子を祝す

羽子極よまをけ矢を新少原をけ 露沾

歌をよむ乃乃たうとあに平れれ 文鱗

淋とまをけよある原をけのまを 枳風

けあやこすれ海よ平とらん 孤屋

年のあやこすれまをけ乃十とらん 去來

るまをけ

恙れく大海り此痛酒う那 蚊足

市よ入る市の笑やこゝろのれ 翠白

たもくまをけ泣き笑いこゝろのれ 嵐雪

年の市線香買りに出さやれ 芭蕉



閑

辛の一夜王子の狐乃にゆん 素堂  
晦月くや夢念の入て大晦日 蚊足  
月雪とのさちわきし 乃昏 芭蕉  
辛くろ梅

子あもしといくらがさへたのれ 其角

貞享丁卯歳霜月仲三日

楓紅菴

眞正應



皇都書林

京堀川通錦小路五町

西村市郎右衛門藏版

芭蕉翁門他書目録

みるゝ里

其角輯

二冊

丙寅記

凡瀑集

一冊

續みるゝ里

日輯

二冊

新ら家

其角輯

一冊

花法見

日輯

二冊

續花法見

湖十輯

二冊

楚衣袋

嵐雲輯

二冊

蛙あし袋

芭蕉其角  
素堂仙化輯

一冊

新二百歌

其角輯

一冊

波新招

涼危輯

二冊

挑諧小傘

初心仕候  
調室較々象集記

一冊



